



国際交流員カロリンのコラム

Grenzen überwindendes Saarland (グレンツェン イベルヴィンデンデス ザールランド) 国境を越えるザールランド



今月は、私のふるさとザールランド州の特徴的な地理と歴史についてお話しします。

ザールランド州はフランスとルクセンブルクに接しています。私が子どもの頃は、よく土曜日の朝、家族と自転車でフランスの市場に行きました。市場で、焼きたてのフランスパンとチーズ、おじいちゃんとお父さんが飲む赤ワインを買って、ザール川の岸辺でピクニックをしました。懐かしくて素敵な思い出です。



ザールランド州は、戦争で何度も属する国が変わりました。もともとはドイツでしたが、第一次世界大戦でドイツが敗戦してからの15年間は、ドイツから切り離されて国際連盟に管理されました。

そして、1935年に住民投票を行った結果、ドイツに戻りましたが、第二次世界大戦で再びドイツが敗戦したため、今度は1945年から2年間フランスに管理されました。

その後、1947年からは独立国となりました。フランスの貨幣を使ったりと他国の影響はありましたが、自分たちの国旗があったし、1952年の

オリンピックや1954年のワールドカップにもちゃんとひとつの国として参加しました。

1955年には再び、独立し続けるかドイツに戻るかを選択する住民投票が行われました。そのとき、ザールランドの人々はドイツを選んだのです。

ドイツに戻ってからも、ザールランド州とフランスとの特別な関係は続きました。国境に近い地域にはドイツ語とフランス語の両方で授業を行う学校があるし、国境を越えて一緒に参加するお祭りがたくさんあります。

私はこのように国境を感じない地域に住んで、とてもおもしろかったと思っています。おばあちゃんの話だと、EUができる前は大変だったそうです。国境には警備兵がいて、いつも身元証明書が必要だったとのこと。フランスの商品は買っても高い税金がかかるので、密貿易が多かったとも聞いています。私の世代では、とても信じられません！ザールランド州では、フランスとドイツの間に国境を感じません。国境には標識があるだけです。



© Historisches Museum Saar, Thomas Roesler



© Tourismus Zentrale Saarland

ドイツの象徴ミッCHELとフランスの象徴マリヤヌ

日本語スピーチ発表会を開催します

市国際交流協会では、ボランティア講師による日本語教室を開講しています。毎週土曜日と日曜日に、外国籍住民の方に日本語を指導していて、アジアをはじめとした様々な国籍の方が受講しています。

発表会では、外国人の方に日々学んでいる日本語を披露していただきます。興味深い発表になる

と思いますので、皆さまぜひお越しください。

■日時 2月17日(日)

午後2時～(午後1時30分開場)

■場所 グリーントウンコミュニティセンター

■申し込み 不要。直接会場にお越しください。

■問い合わせ先 市国際交流協会事務局
(市民協働推進課) ☎(32)8887

※ママパパ English については、26ページを check !



TAKE FREE

広報しもつけを設置協力いただけるコンビニエンスストアなどのお店を募集しています。

ご協力いただける場合は総合政策課☎0285 (32) 8886情報広報グループまでご連絡ください。

PC・スマホ
市ホームページ

